

## 平成22年度推奨の優良書籍

---

平成22年7月推奨

### 『NASAより宇宙に近い町工場 僕らのロケットが飛んだ』

植松 努 著

小学生(高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

誰もが工夫して「よりよく」を目指すようになれば、社会はよくなる！

すべて自腹で宇宙ロケット開発に取り組む北海道の小さな町工場から、自分も社会もよくしたいと思うすべての人への提言。「夢をかなえるには？」「仕事を楽しむには？」「明るい未来をつくるには？」を熱く語る。

株式会社 ディスカヴァー・トゥエンティワン 発行 ¥1,300(税別)

---



平成22年7月推奨

### 『空と大地と虹色イルカ』

ながす みつき 作 高田 勲 絵

小学生(中・高学年)対象

海のかなたから七色の光が走ってきた。光は海をまっ二つに切りさき、空へと大きくジャンプした。イルカだった一ひと夏の少年たちのぎらぎらする冒険をえがく。

株式会社 学習研究社 発行 ¥1,200(税別)

---



---

平成22年12月推奨

## 『つづきの図書館』

柏葉 幸子 著

小学生(高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

ある田舎の図書館に司書として勤め始めた主人公桃さんの前に絵本から出てきた「はだかの王様」「おおかみ」などが現れ、読者のその後が知りたくて、探し始めるというストーリー。つづきをさがすと共に、閉じこもりがちだった主人公桃さんが社会にうち解けていくという成長の物語である。

株式会社 講談社 発行 ¥1,500(税別)

---



---

平成22年12月推奨

## 『ひとりたりない』

今村 葦子 著

小学生(中学年、高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

あの夏、私はおばあちゃんにSOSを出した。周斗君をかばって交通事故でなくなってしまった志乃お姉ちゃん。姉の突然の死によって、ばらばらになってしまいそうな家族。

ひとり一人の存在の大切さと家族の意義について描いた作品である。

株式会社 理論社 発行 ¥1,300(税別)

---



---

平成22年12月推奨

## 『命の教室 動物管理センターからのメッセージ』

池田 まき子 著

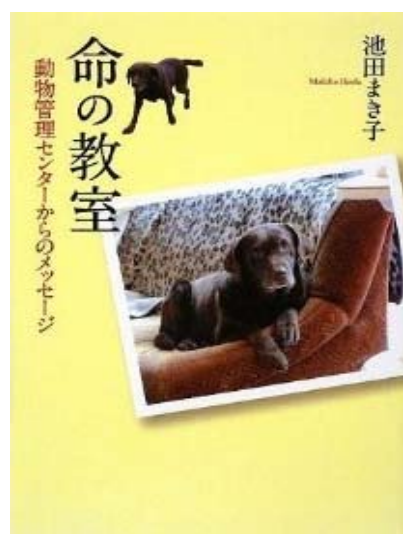
小学生(中学年、高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

捨てられた犬や猫たちを待つ、不幸な最後…。尊い命に向き合ってもらうため動物管理センターの職員たちは、子どもたちに向けて「命の教室」を始めることにした。

動物の命の大切さとともに自分自身の命の尊さにも目を向けてほしいという命のメッセージが伝わってくる内容である。

株式会社 岩崎書店 発行 ¥1,200(税別)

---



---

平成23年2月推奨

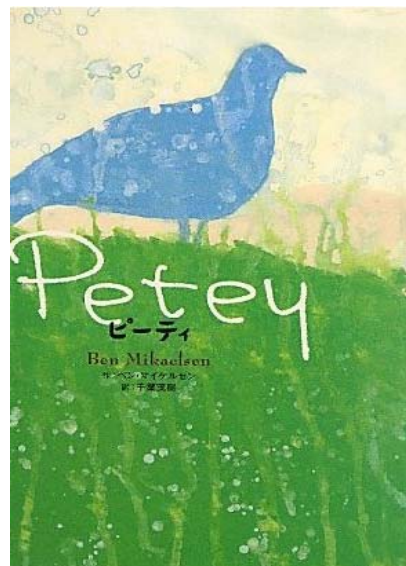
『ピーティ』

ベン・マイケルセン 作  
千葉茂樹 訳

小学生(高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

脳性麻痺で生まれ、人生の大半を施設で過ごすピーティ。ハンディを持ちながらも、ひとつひとつの出会い、目にするもの、耳にするものによるこびと驚きを味わい、自分の人生を生ききった、胸を打つ光あふれる物語。

すずき出版 発行 ¥1,500(税別)



---

平成23年2月推奨

『マルカの長い旅』

ミリヤム・プレスラー 作  
松永美穂 訳

中学生、高校生、青年及び一般対象

7歳の秋、私が熱を出して寝ている間に、お母さんはいなくなつた…。第二次世界大戦下のポーランドを舞台に、見知らぬ場所に取り残され、ひとり生き抜く少女マルカと、娘を取り戻そうと闘う母の、心にずしりと響く物語。

徳間書店 発行 ¥1,600(税別)

